

中学校給食の導入に係る 教育委員会検討会 意見書

平成26年2月

大磯町教育委員会

1.これまでの取り組みと進め方

①大磯町立中学校給食に関する懇話会

○開催期間 平成24年10月～平成25年3月（6回開催）

○メンバー PTA代表、学校長、栄養教諭、町栄養士、公募町民

☆中学校給食の考え方

「給食施設の整備費等課題があり、給食実施まで時間がかかることも考えられるが、食育を推進するためにもなるべく早い時期に自校方式での中学校給食の実施を希望する。」併せて、「課題解決後、自校方式までの間、弁当を持ってくることが困難な生徒の対応として、デリバリー方式を検討する必要がある。」

②中学校給食の導入に係る教育委員会検討会

○開催期間 平成25年6月～9月(7回開催)

○メンバー 教育委員

☆中学校給食の方向性

「次の項目について、総合的に判断し、教育委員会としての方向性を示し、町長に意見書として提出する。」

- ・大磯町立中学校に関する懇話会の意見・検討内容
- ・中学校給食に関するアンケート集計結果
- ・給食実施中学校の視察内容
- ・本検討会の検討内容

2. 給食実施中学校の視察

①センター方式：【二宮町学校給食センター・二宮町立二宮西中学校】

○給食の流れ

学校給食センター ⇒ 各学校へ配送 ⇒ 学校配膳員が受取 ⇒ エレベータで各階へ
⇒ 各階で配膳員が受取 ⇒ 生徒が受取・運搬 ⇒ 教室に食器・料理を配膳 ⇒ 生徒
セルフサービスで受取

○生徒の配膳の様子

・チャイムが鳴ってから食べ始めまで10～15分程経過(昼休みは30分間)

※給食開始当時(昭和47年)からセンター方式 ⇒ 新施設設(H22)もセンター方式に



②デリバリー方式：【愛川町立愛川中原中学校】

○給食の流れ

委託業者から給食搬入 ⇒ 配膳員が保管室で受取 ⇒ 生徒が受取りに来室 ⇒ 各クラスへ運搬 ⇒ 生徒各自が受取 ⇒ 揃ったところで食事開始

○生徒たちの様子

- ・チャイムが鳴ってから5～10分後に食事開始
- ・給食の運搬は一方通行とし、導線がスムーズに流れるよう工夫

※給食保管室…15畳程度の一室を保管庫として利用。リフォームはエアコンと水道を取付。

※学校カリキュラム…時間割を変えずにやってみた。次第にスムーズに出来るように。

※食事量の調節…主食(ごはん)のみ、おかわり用を用意。



③自校方式：【開成町立文命中学校】

○給食の流れ

給食室からエレベータで各階へ配送 ⇒ 配膳員が各階給食コンテナを配置 ⇒ 生徒が給食コンテナを運搬 ⇒ 各クラスで配膳

○生徒たちの様子

- ・食事開始まで10～15分経過

※現在の給食方式(自校)は、災害時を想定し政策的に実施している。



3. 中学校給食に関する アンケート集計について

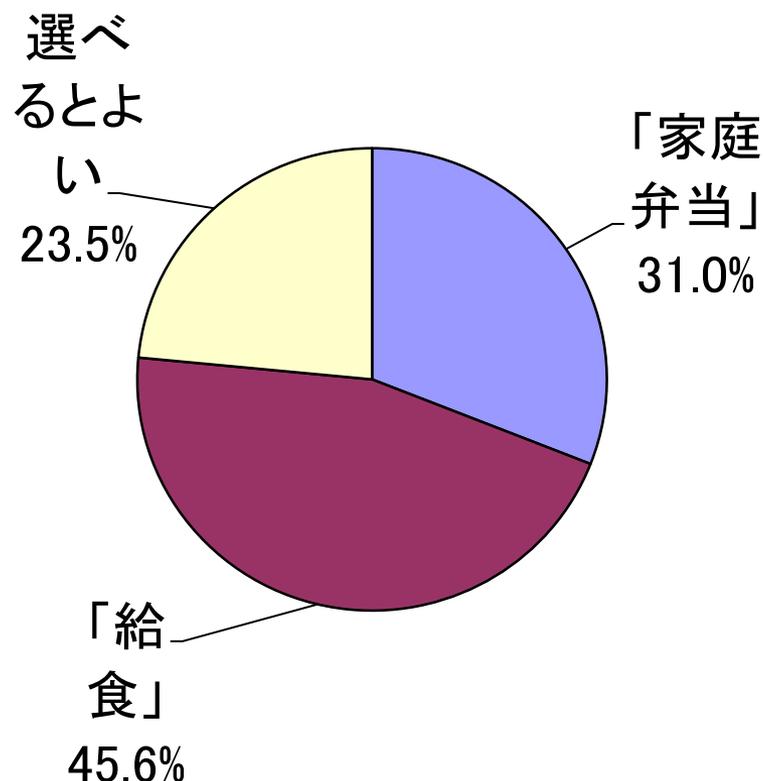
【調査方法】

- 調査期間: 平成25年7月5日～7月22日
- 調査対象: 町立中学校全生徒とその保護者・教職員
町立小学校6年生とその保護者
一般町民1,000人(無作為抽出)
- 回収率・回答数: 全体(67.0%・2,120件)
 - ・生徒(97.2%・792)、保護者(72.0%・587件)
 - ・中学校教職員(86.0%・49件)
 - ・児童(96.6%・230件)、保護者(66.4%・158件)
 - ・一般町民(30.4%・304)

○今後の昼食のあり方

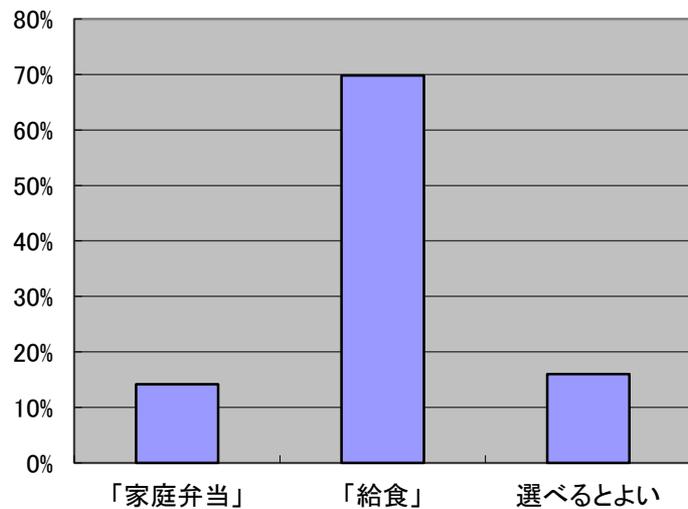
問) 中学校の昼食としてどの方法がよいと思いますか？

- 小学校のように「給食」がよい 952
- 今までどおり「家庭弁当」がよい 647
- 両方を選べるとよい 491

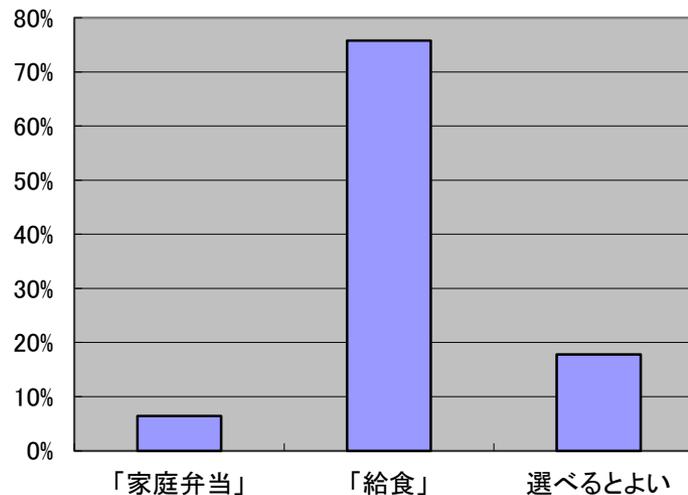


※回答者別

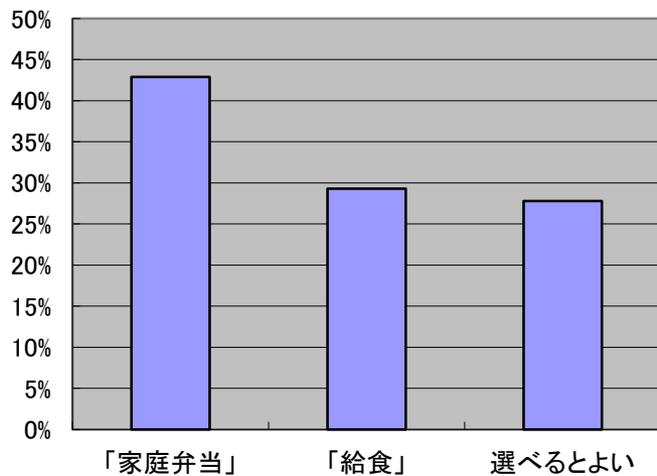
【中学生保護者】



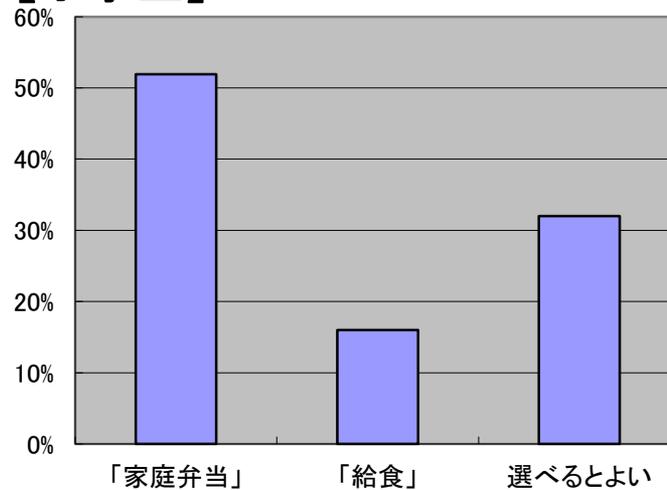
【小学生保護者】



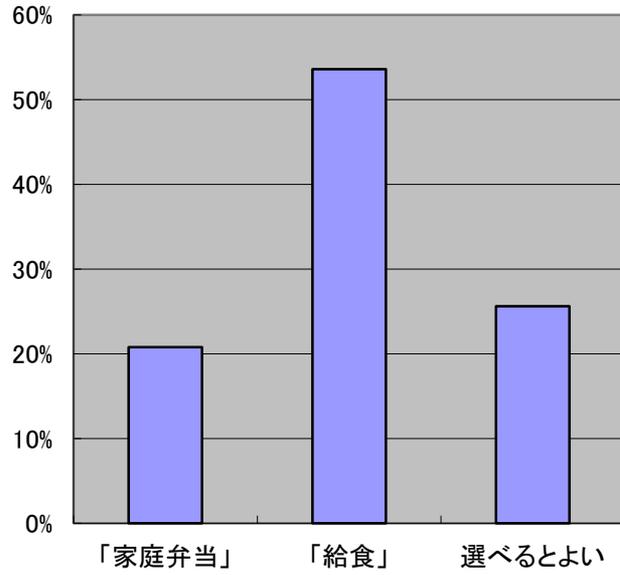
【中学生】



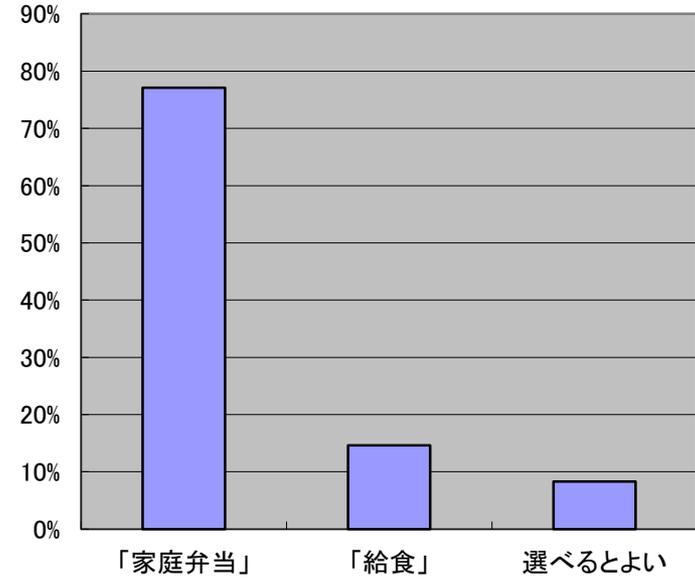
【小学生】



【町 民】



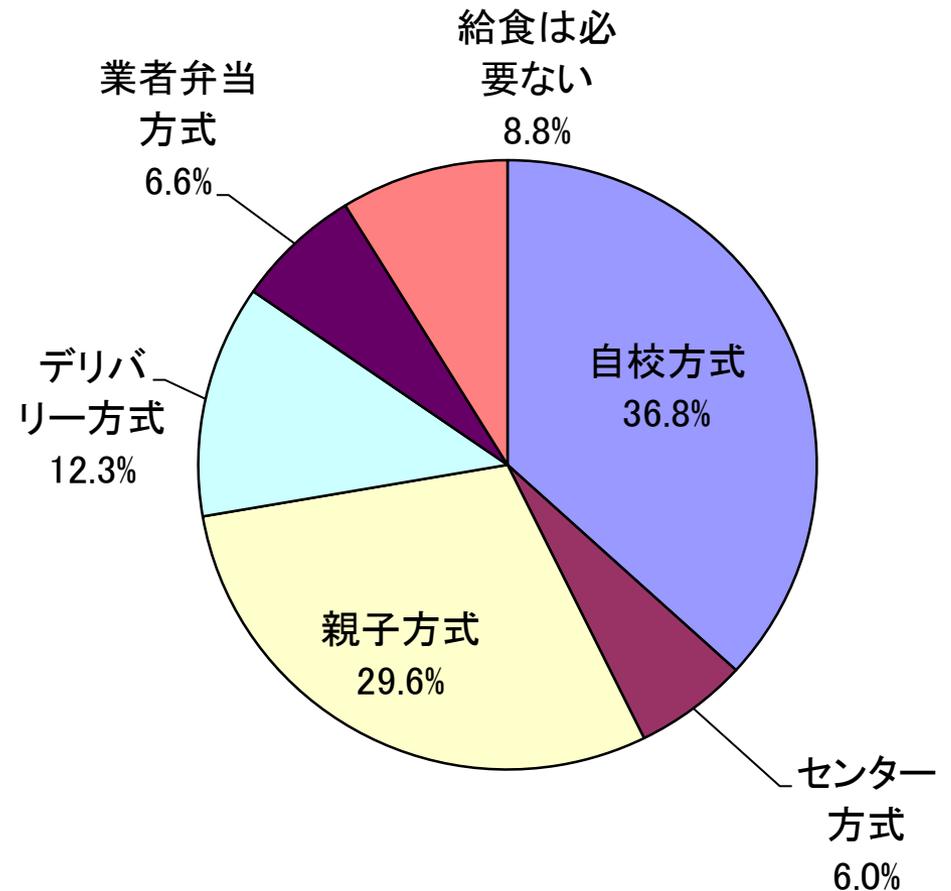
【中学校教職員】



○中学校給食の方式と実施

問) 中学校給食を導入する場合どの方式が最もよいと思いますか？

<input type="checkbox"/> 自校方式	414
<input type="checkbox"/> 親子方式	333
<input type="checkbox"/> デリバリー方式	139
<input type="checkbox"/> 給食は必要ない	99
<input type="checkbox"/> 業者弁当方式	74
<input type="checkbox"/> センター方式	67



● 自校方式を選んだ理由は…

「温かい食事」、「栄養バランスがよい」、
「小学校と同じなので作り手の顔が見えて安心」
「食中毒の心配がないので安心」、「生徒みんなが同じものを食べられる」

● 親子方式を選んだ理由は…

「温かい」、「アレルギー対応もできる」、「栄養バランスがよい」
「小・中学校が近く効率的な配送」、「自校方式などより比較的安く導入できる」

● デリバリー方式を選んだ理由は…

「栄養バランス」、「財政負担も軽い」、「早期に導入が出来る」

● 「業者弁当方式」を選んだ理由は…

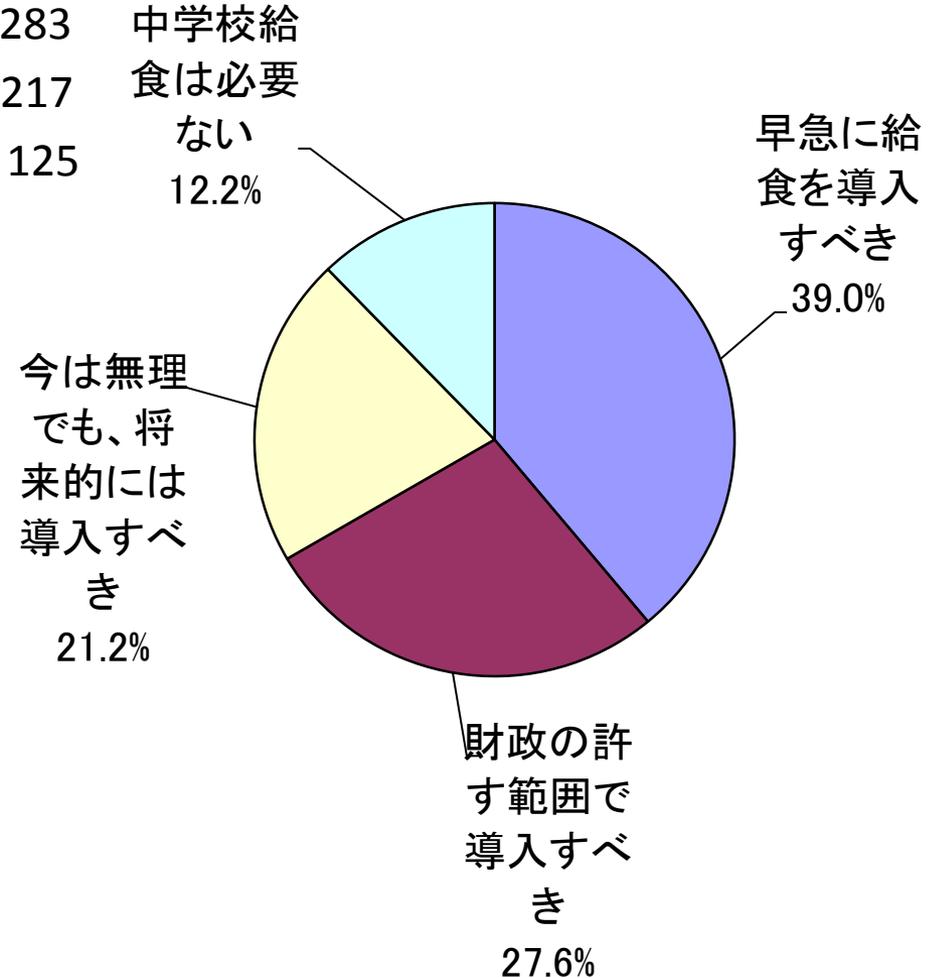
「経費がかからないから」、「学校活動への影響が少ない」

● 「中学校給食は必要ない」を選んだ理由は…

「学校施設整備に予算を使うべき」、「学校活動への影響が大きい」
「家族弁当の良さを感じて欲しい」

問) 中学校給食を導入する場合の時期について

- 早急に給食を導入すべき 399
- 財政の許す範囲で導入すべき 283
- 今は無理でも、将来的には導入すべき 217
- 中学校給食は必要ない 125



●「早急に給食を導入すべき」を選んだ理由は・・・

「家庭の負担軽減のため」、「食中毒など衛生面」、「やるなら早く」、「栄養バランス」

●「財政の許す範囲で」を選んだ理由は・・・

「財政を考えて検討を」、「無理して実施する必要はない」、「他に優先すべきものがある」
「できる範囲でいい」

●「将来的に導入すべき」を選んだ理由は・・・

「時間をかけて充分検討を」、「財政が厳しいから」、「赤字にしてまでやる必要はない」

●「中学校給食は必要ない」を選んだ理由は・・・

「他に使うべき予算がある」、「家庭とのつながりを大切に」

○自由意見をいただきました！

家庭弁当が良いと思う方々

- 食べる量を調節できるお弁当が一番。親子のコミュニケーションの一つ。
- 全部食べきって子どもから「おいしかった」と言われるのがうれしい。
- 子どもに愛情弁当を作れば、その愛が必ず親に返ってくる。親はそのために愛を！
- 学校給食制度の目的、「食」を通し、「心身の健康」「家族関係」「親」から「子」「孫」へ。
- 給食は、配膳・片付けに時間がかかってしまう。
- ワクワク感のある弁当の方が楽しみ。
- 給食よりも、もっと他の設備にお金をかけてほしい。
- もし家の人を作るのが大変なら、自分でも作るし、それが勉強になる。
- 小学校6年間ずっと給食だったので、お弁当が食べたい。
- 学校給食用の予算があるなら他に使う所があるのではないか。

給食の導入を望む方々

- 部活の朝練があると、6時台に作った弁当なので食中毒の心配がある。
- 土・日曜日でも部活があり週7日お弁当なので休みがありません。
- 共働きせざるを得ない中、子育て中の弁当作りの負担軽減は有意義な税金の使い道。
- 給食のおかげで好き嫌いが改善された。
- 日本の将来を考えれば、子育ての負担を少なくすることは大切。
- 配膳などの仕事があることで責任感や絆が深まる。これも教育。
- 弁当では食べられないものが食べられる。
- 給食は栄養士さんが作っているから、栄養が片寄らず、健康的。
- おばあちゃん、お母さんは朝弁当で大変です。少しでも楽にしてあげたい。
- お弁当忘れ、また“弁当格差”を無くすためにも、小学校から引き続き給食に。

給食と家庭弁当を選べるのが良いと思う方々

- お弁当は子どもと親をつなぐ愛情の証、夏場傷みが気になるので選択を。
- 何でも町に負担や要望を出すのはよいが本当に困っている所に予算を。
- 共働き家庭のお弁当作りは負担。1ヶ月に何回かお弁当デイにしたい。
- 食育を学校に頼る傾向が増加する。家庭での細やかな指導が不可欠。
- 弁当は好みのものが食べられる、給食は温かいものが食べられる。
- 中学校の時間割だと昼休みが無くなってしまう。調整が必要。
- 家庭の事情もあるので給食が良いか否か、両方の意見を入れてほしい。
- いままで給食だったので弁当が良いが、たまには、給食も食べたい。
- 給食は温かくていろいろな物が食べられる、お弁当は食べたいものが食べられるので、交互が良い。

まとめ・考察

保護者⇒「自校方式」による給食の早期導入を望んでいる

- ・「給食」の早期導入…弁当作りに負担、食中毒の心配。
- ・「自校方式」を…「温かい食事」、「作り手の顔が見える」、財政面を度外視すれば、「自校方式」。

中学生⇒自分に合った量を食いたいから「家庭弁当」を望んでいる

- ・「家庭弁当」を…「食べる量が調節できるから」、成長期の中学生にとって男女の差も含め大きな問題。
- ・「学校カリキュラムへの影響」…部活動に所属している生徒たちにとっては、少し心配。

小学生⇒家庭弁当は特別！という思いから「家庭弁当」を望んでいる

- ・「家庭弁当」を…「食べる量が調節できるから」、遠足や運動会など、家庭弁当は「特別」。

教職員⇒教育予算の優先度により、今までどおりの「家庭弁当」を望んでいる

- ・「家庭弁当」を…「食べる量が調節できるから」、「アレルギーの心配がないから」、「他の教育予算に充てる」
- ・「学校カリキュラムへの影響」…最も心配している。

町民⇒財政状況を見極めた上で、「自校方式」による給食を望んでいる

- ・「給食」の導入を…「財政状況を見極めた上で」、「優先順序を考慮してから導入を」
- ・給食方式…「自校方式」が望ましい。

4. 給食方式の特徴と課題

【自校方式】

☆各学校に調理場を設けて給食を提供する方式

(大磯・国府小学校方式)

- **特徴**: 栄養バランス、食物アレルギーへの対応、適温給食、食育の推進や衛生管理面で優れている。
- **課題**: 配膳・片付けの時間が必要なため、学校カリキュラムの変更等調整を要する。
 - ・メニューにより残飯処理量が多くなる。
 - ・整備費の負担が大きい。
 - ・給食調理室建設による学校の活動空間の減少への対応

【センター方式】

☆複数校の給食を調理できる調理場を設けて、各学校に給食を提供する方式
(二宮町方式)

●**特徴**: 小中学校4校分を集約することにより、給食の調理等効率的な運営ができ、小学校給食施設の老朽化の課題も解消。栄養バランス、食育の推進は優れている。

●**課題**: 適温給食、食物アレルギーへの対応、衛生管理の点ではやや劣る。

- ・配送時間と配膳・片付けの時間が必要なため、学校カリキュラムの変更等調整を要する。
- ・メニューにより残飯処理量が多くなる。
- ・整備費の負担が大きい。
- ・建設時に法的規制への対応等、実施まで時間を要する。

【親子方式】

☆近隣の学校給食室を活用して調理し、他の学校に配送して給食を提供する方式

- **特徴**：既存の給食施設を活用するため、調理等効率的な運営が出来る。
 - ・栄養バランス、食物アレルギーへの対応、食育の推進に優れている。
- **課題**：配送時間と配膳・片付けの時間が必要なため、学校カリキュラムの変更等調整を要する。
 - ・メニューにより残飯処理量が多くなる。
 - ・整備費の負担が大きい。
 - ・法的規制への対応等が困難。

【デリバリー方式】

☆民間事業者に給食の調理・学校への配送を委託する方式。献立作成、食材選定調達、調理方法の指示は全て教育委員会(学校)が行う。

- 特徴：施設整備は最小限となるため、比較的短期間での導入が可能。
 - ・栄養バランス、食育の推進に優れている。
 - ・配膳・片付け時間が短時間。
- 課題：適温給食・アレルギー対応ができない。

【業者弁当方式】

☆民間業者が調理した弁当を購入する方式

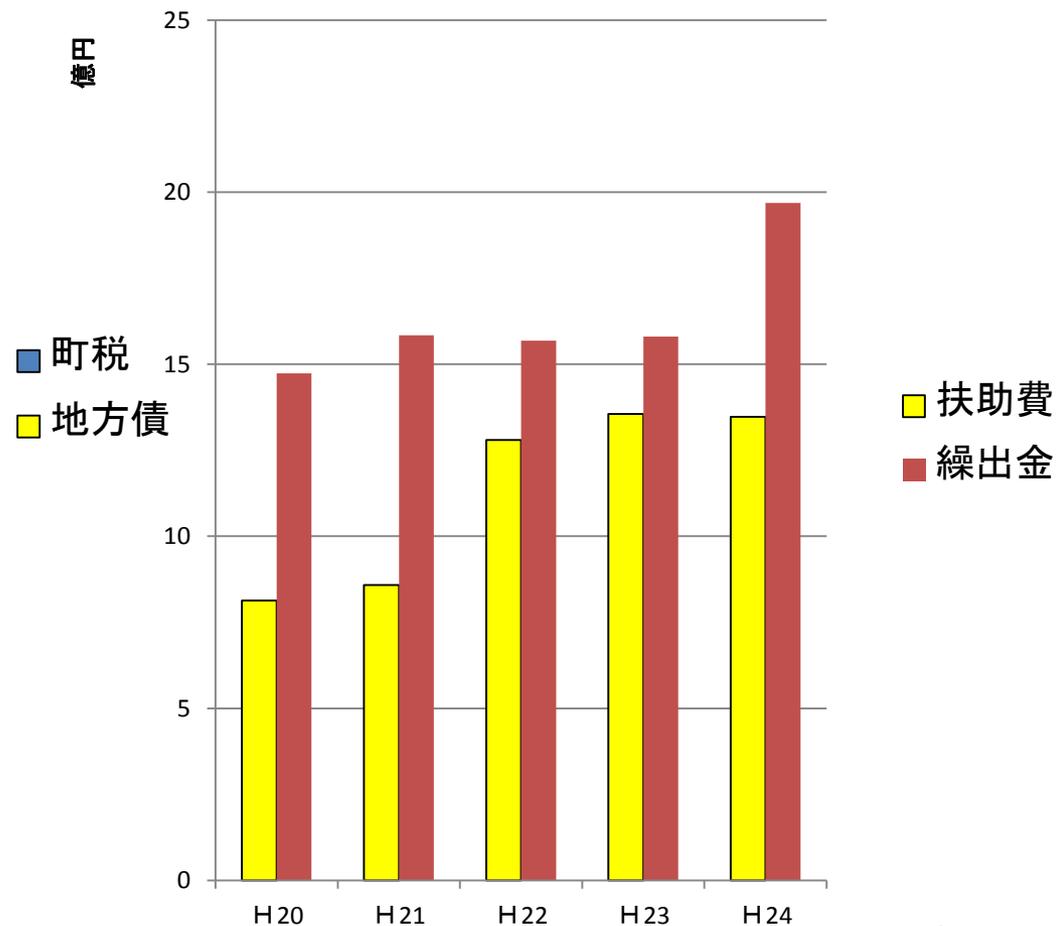
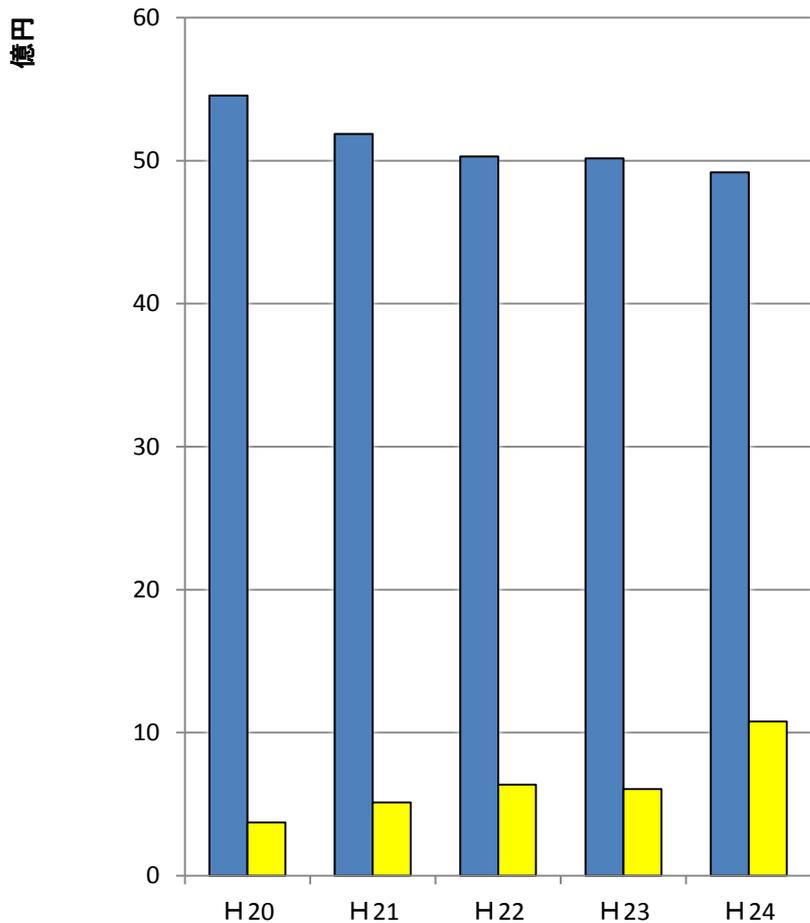
- **特徴**：施設整備を伴わないため、比較的短期間での導入が可能。
 - ・配膳・片付け時間が短時間。
- **課題**：栄養バランスが偏る可能性、適温給食・食育の推進・アレルギー対応ができない。
 - ・1食あたりの食費が高くなる可能性あり。

5. 給食方式別の経費比較

方式	初期投資	年間維持費	30年経費
●自校方式(2校分)	4.5億円	3,500万円	20億円
●センター(小中4校)	10億円	8,000万円	25億円
●親子(小学校2校を増築)	4億円	3,500万円	19億円
●デリバリー(2校分)	1,000万円	3,000万円	9億円
●業者弁当(2校分)	800万円	300万円	9,000万円

6. 大磯町の財政状況

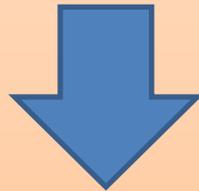
○一般会計・歳入歳出決算の状況



○グラフからわかること

収入: 税金が減少傾向

支出: 社会保障制度（医療費・福祉・子育て支援）
は増加の一途



収支不足のやりくり = 厳しい財政状況

7. 中学校給食の方向性

- I 中学校給食を導入
- II デリバリー方式(調理・配送委託方式)
- III 生徒全員給食を原則
(アレルギー対応等・家庭弁当との選択制も可)

I 中学校給食を導入する（給食導入の可否について）

○アンケート調査結果

約7割の方が給食の導入を望んでいる

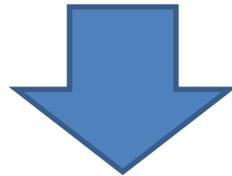
○保護者の意見

「毎日の弁当作りの負担」

「夏季の食中毒等衛生面での不安」

○学校給食法や食育推進法の趣旨

「食育」は、義務教育としても重要な教育

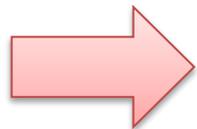


給食の導入は必要

II テリバーリー方式（給食方式について）

○5つの給食方式を次の検討項目を含めて検討

- ・給食実施校への視察
- ・アンケート調査結果
- ・給食方式別施設の維持管理費推計
- ・本町の財政状況



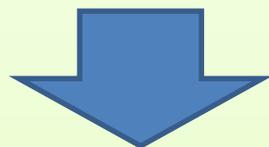
次の観点から給食方式を選択

- | | |
|-------------|---------------|
| ①栄養バランス（食育） | ⑤法的課題への対応 |
| ②アレルギー対応 | ⑥財政的課題 |
| ③食事量の調節 | ⑦学校カリキュラムへの影響 |
| ④導入までの期間 | |

II テリバリー方式（給食方式について）

○検討の結果

7つの課題を概ね満たすことができる方式



「**テリバリー方式（調理・配送委託方式）**」

- ①栄養バランス（食育）……………学校栄養士が対応
- ④導入までの期間……………比較的短期間で導入
- ⑤法的課題への対応……………法規制はなし
- ⑥財政的課題……………比較的安価
- ⑦学校カリキュラムへの影響……………影響なし

II テリバー方式（給食方式について）

※残る課題の対応策

- ②アレルギー対応＝「家庭弁当」との選択制
- ③食事量の調節＝おかわり用の米飯で調節

☆「早期導入のため、かつ現実として可能な方法。」

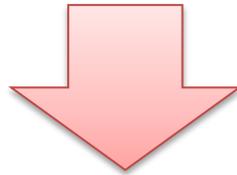
☆「初期投資額が抑えられるため、試行的な導入も可能。」

☆「他の方式へ転換する場合でも、状況に応じて柔軟な対応が可能。」

Ⅲ 生徒全員給食（給食対象者について）

学校給食の主旨

＝児童生徒の心身の健全な発達



生徒全員の給食を原則

※アレルギー対応などを考慮し、家庭弁当との選択制も可能

デリバリー方式について

「デリバリー」という名称のイメージ ⇒ 配達される業者弁当？

☆小学校の自校方式給食同様に

- ・**学校の栄養士が、栄養バランスを考えて献立を作ります！**
- ・**安全な食材を学校が調達します！**
- ・**委託業者を指導・監督した上で提供される給食です！**

○教育委員から

☆学校では「食育」という教育の一環としてだけでなく、生徒たちが仲間と一緒に昼食を楽しむことができるよう取り組んでいただくことを願います。

☆検討会によって決定した「中学校給食の方向性」を基本として、その実現に向けて、食育を始め、児童・生徒の健全な成長・育成の環境づくりのためにも、中学校給食が早期に実現されることを期待します。

「中学校給食の導入に係る教育委員会 検討会意見書」

- **大磯町ホームページ**
- **大磯町情報コーナー** に掲載中